

に高まります。十二月には、特別委員会の「合併の時期は昭和三十六年三月が適当」との報告が町議会で承認されました。

一九六〇（昭和三十五）年十二月には、札幌市でも合併調査特別委員会が設置され、豊平町と札幌市との合同会議で合併の条件などについて話し合われていきます。

**合併の議決・・・
議場前は騒然！**

豊平町長、札幌市長が話し合いを重ねた結果、合併の時期は一九六一（昭和三十六）年五月一日に決められました。豊平町では、三月十日からの定例町議会での議決を予定していました。

しかし、開会当日、合併に反対する住民約四〇〇人が朝

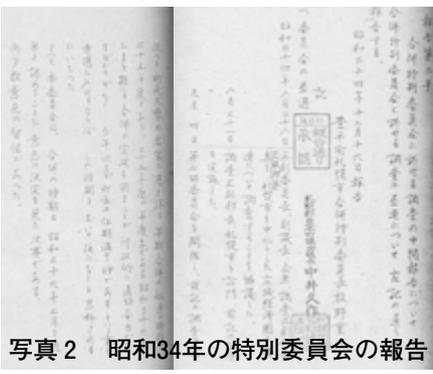


写真2 昭和34年の特別委員会の報告

掲載した写真1〜5は札幌市文化資料室の所蔵です。

から議場前に集まり、合併に賛成する町長、議長、議員の入場を阻止しようとしています。町長はやむなく警官隊の出動を要請して町民を排除し、ようやく議会を開会する事態となりました。

そして十四日午後、傍聴席が約一五〇人の町民で超満員の中、記名投票が行われ、合併案を賛成十八、反対十で可決し、札幌市との合併が決まりました。こうして、明治七年の開村から、九十年近くにわたる豊平町の歴史は幕を閉じます。

豊平町役場は、札幌市役所月寒支所となり、豊平は上下水道など社会資本が整えられていきました。



写真3 昭和36年5月1日、合併の公文書に署名する本間町長（左）と原田市長（右）

スペシャルインタビュー 豊平町から札幌市へ

当時、豊平町の庶務課長だった似鳥芳久さん（86歳）、町民だった吉田尚さん（82歳）にお話を伺いました。



吉田さん 似鳥さん

「合併直前の豊平町の様子はいかがでしたか？」

似鳥さん（以下「似鳥」） 美園、中の島の辺りは、札幌市との境がわからなくらい住宅地が進んでいました。

吉田さん（以下「吉田」） 平岸辺りはまだリング園が広がっていました。澄川の方まであったのではないでしょう

か。
「町民の合併についての意見はどうでしたか？」



写真4 合併案が可決されたことを伝える北海道タイムスの記事

似鳥 多くの町民は「札幌市民」になることを望んでいたと思います。ただ、農家などは開発から取り残されるといふ気持ちがあつて、反対だったようです。

吉田 終戦による引揚者の中には、今の生活が脅かされるのではと心配し、反対する人がいたのではないのでしょうか。でも、町の様子は比較的に落ち着いたと思います。

「合併案の議決当日は反対派の住民が多く詰め掛けたようですが、雰囲気はいかがでしたか？」

似鳥 本間町長は、暴力事件が起きて逮捕者が出ることを一番心配していました。幸い

そのようなことにはならず、町長と「よかった」と話したことを覚えています。

「役所の職員の様子はどうでしたか？」

似鳥 私は役所の組織が完成するまで、月寒支所の庶務班長を務めました。豊平町の職員たちは、「札幌市職員に負けるな」という気持ちが強く、みんな一生懸命でした。ですから、いろいろな部署から引っ張りだこでしたよ。

「合併後はどのように変わりましたか？」

似鳥 合併後は、開発が急速に進みました。豊平町のままでは財源が厳しかったので、今のような発展はなかったのではないのでしょうか。



写真5 合併を記念して花電車が運行された